

# 地方都市視察報告書

自治・議会・行財政改革等特別委員会

- 1 実施日 令和6年10月29日(火)
- 2 視察地 岩手県一関市

## 【市の概要】

- (1) 面積 1,256.42km<sup>2</sup>
- (2) 人口・世帯数(令和6年4月1日現在)  
人口 106,615人  
世帯数 46,312世帯



- (3) 一関市は東北地方の中央に位置し、首都圏からは約450km、仙台と盛岡の中間地点にあり、『中東北の拠点都市』として、経済・文化・教育の中心となっている。

宮城、秋田の両県に隣接し、市内には3県にまたがる栗駒山、<sup>げいびけい</sup> 猊鼻溪や<sup>げんびけい</sup> 厳美溪の名勝地、一関温泉郷などの観光地があり、世界遺産登録のまち「平泉」や三陸方面への観光拠点ともなっている。また、市の中央部には東北一の大川・北上川が流れている。

地域のイベントも活発で、毎年開催される「一関市民まつり」や「一関花火大会」など、多くの人々が集まる賑やかな催しがある。

一関市は、東北や日本の未来を大きく変える可能性をもった国際プロジェクトの「国際リニアコライダー（ILC）」を総合計画の重点プロジェクトに位置づけ、次の世代を担う子どもたちが夢と希望と誇りをもって活躍できる地域となるようSDGsの理念を踏まえた持続可能な地域づくりを進めており、令和3年5月には、SDGsの達成に向けて優れた取り組みを進める「SDGs未来都市」として選定されている。

## 3 視察項目・内容

- (1) 議会改革について
- (2) 議会BCPについて

## 4 視察参加者

### 【委員】

川村 のりあき委員長	大 門 さちえ副委員長	田 中 ゆきえ委員
鈴 木 ひろみ委員	豊 島 あつし委員	野もとあきとし委員
近 藤 なつ子委員	さわい めぐみ委員	

### 【随行】

議会事務局議事係 黒木 明子 波多野 浩二

### 【共同視察者】

議会事務局次長 高橋 美香

## 5 視察結果・所感

議長自ら対応していただき、議会改革は先進的な議会の取組を徹底的に取り入れることが重要だという話を伺い印象深く受け止めた。一関市議会は、第18回マニフェスト大賞※「優秀賞・躍進賞」を受賞しており、広報リニューアル、政策提言、政策検討会議、通年議会、オンライン会議、AIによる議事録作成、デジタル化、議会モニターと意欲的な取組みをしていたが、市民の声を起点にできることは全て行おうという姿勢に深く学ばせていただいた。

議会BCPについては、一関市の議会BCPは、特別区の先行自治体と比べて非常に簡明であったため、強い関心をもって多数質疑を行ったが、東日本大震災の経験を経て極めて実践的で、実際に発災した際の柔軟性の大きさがよく理解でき、当区議会での計画策定に非常に資する視察となった。

※マニフェスト大賞…地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上に資する優れた取組みを募集し、表彰するもの。

## 6 主な質疑項目

- (1) 常任委員会等をオンライン会議でも可能とする場合のソフト・ハード面の整備について
- (2) 災害時にどうしても伝えたいものを写真に撮って送信する仕組みについて
- (3) 議会BCPはシンプルにした方がよいのかということについて
- (4) オンライン会議を盛り込むなど、議会BCPを見直す予定について
- (5) 災対本部の設置基準が執行部と異なる理由について
- (6) 「一関市議会公式チャンネル」を開設するに至った経緯について
- (7) 「議会だより」アンケート調査の実施方法について
- (8) 議会BCPに東日本大震災の経験をどう生かしたかについて
- (9) 議会改革を進めるために、他議会にどう学んだかについて
- (10) 東日本大震災を経験した一関市において、シンプルな議会BCPを策定した理由について
- (11) 「議会だより」の“手にとりたいと思わせる”デザイン、内容が目を引いたことについて
- (12) 3. 1. 1 発災時、情報の渋滞が発生し実際に参集が難しかったこと等、現実的な事象があったことについて
- (13) 市民と議員の懇談会の取組等を市長への提言までつなげる取組について
- (14) 災害対策の行動指針をもとに情報を集約させることの大切さについて



議場にて、一関市議会 勝浦議長（右から3番目）と



講義中の様子